

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

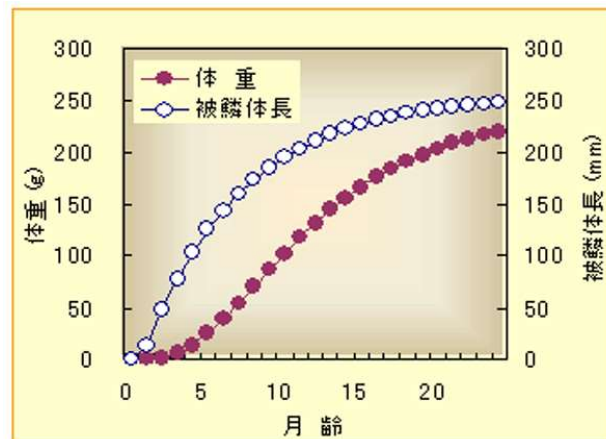
系群名 対馬暖流系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学の特徴

寿命： 2歳
成熟開始年齢： 1歳
産卵期・産卵場： 東シナ海では周年、日本海では春季
索餌期・索餌場： 夏～秋季、日本海西部～東シナ海
食性： 稚魚期・成魚期とも動物プランクトン
捕食者： 大型魚類やほ乳類、海鳥類、頭足類

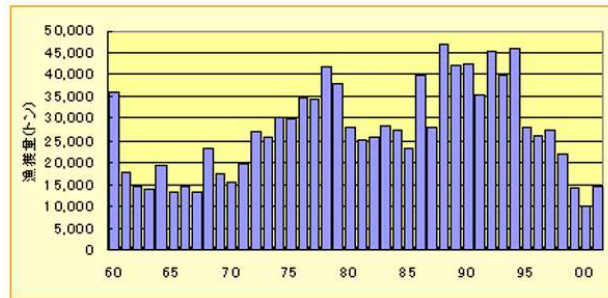
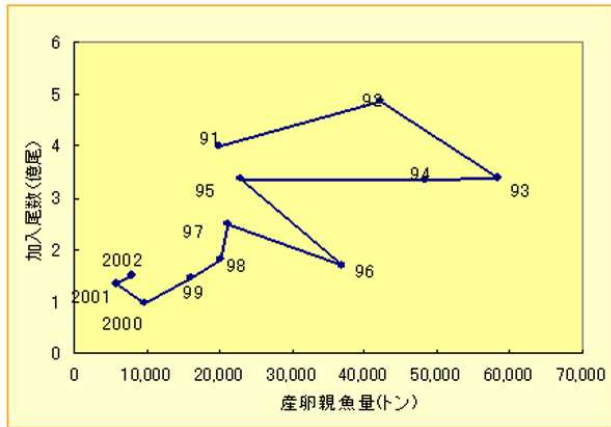


漁業の特徴

対馬暖流域では東シナ海区では中小型まき網や敷網、日本海西区では大中型まき網、中型まき網、定置網、敷網により漁獲され、日本海北区では定置網、敷網、まき網などで混獲される程度である。漁獲が多いのは東シナ海区と日本海西区である。

漁獲の動向

対馬暖流域において1981～1997年の漁獲量は約21千～47千トンで推移していたが、1998～2000年に減少した。2001、2002年は2000年よりもやや漁獲量は増加した。対馬暖流域における2001年の漁獲量は約15千トンであり、2002年は約16千トンであった。

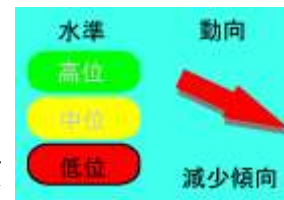


資源評価法

コホート解析により資源量を推定した。寿命は2歳とし、最近年のFは過去3年間の平均値とした。自然死亡係数は1.5とした。ほかに、ノルパックネット鉛直曳による卵豊度の推定を行なった。

資源状態

コホート解析から計算された資源量は、1992年に164千トンのピークを示した後、減少しつづけ、2000年には近年で最低の34千トンとなった。2001年以降は当歳魚の加入がややよく、資源量は2001年は39千トン、2002年は45千トンと推定された。2002年の卵豊度は2000年よりも低いが、2001年よりやや増加した。



管理方策

本資源は当歳魚を主体に漁獲されており、加入の成否により漁獲量が決定される。2001年以降は再生産成功率がやや好転したと考えられるため、2003年以降の産卵親魚量は増加するものと思われる。現在は資源水準が低位であるので、現状のFよりも低いF20%をFlimitとし、不確実性を見込みやや低いFをFtargetとした。その時に計算される漁獲量をABClimitおよびABCtargetとした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	15千トン	0.8F30%	0.70	27.5%
A B C target	13千トン	0.8・0.8F30%	0.56	23.1%

F値は各年齢の単純平均

漁獲割合 = $ABC / \text{資源重量}$

資源量は1月の値

資源評価のまとめ

- コホート解析により資源量を推定した
- 資源量は1990年代後半に減少したが、2001年以降やや増加に転じた
- 漁獲量は加入の成否により決定される
- 2001年以降の加入は2000年よりも多かった

資源管理方策のまとめ

- 近年加入の変動が激しいので、今後の動向を注意深く見守る必要がある
- 資源状態を低位から増加させるには、現状のFをやや下げる必要がある

資源評価は毎年更新されます。